

屋外ウォークラリー マニュアル

【引率者が事前にすべきこと】

- ①実施コースの資料を印刷し、下見をおこなう。
- ②当日の引率者の配置を決める。配置場所は道を間違えやすい曲がり角がおすすめ。また、配置場所への移動手段としてネイパル深川のマウンテンバイクを使用したい場合には申請をおこなう。
- ③緊急車両を準備できるかどうか検討する。当日に迷ったグループやケガ人が出た場合に、ネイパル深川の車に乗せて帰ることは出来ません。緊急車両を準備できない場合にはタクシーを利用することもできます。
- ④「グループ数」、「スタート時の時間差」、「かくしタイム」を決める。
 - ※1グループ4～6人程度が一般的です。
 - ※一般的な時間差は3分～5分です。また、「3.3kmA コース」「3.3kmB コース」といったように2つのコースでおこなう場合には、同時に2グループが出発することが出来ます。
 - ※一般的なかくしタイムは、3.3km コースが60分、6km コースが100分、7km コースが120分です。かくしタイムを設けることで参加者が急いで進むことが無くなり、前のグループを追い抜こうとしづらくする効果があります。
- ⑤当日必要な資料を印刷して持参する。参加者用資料は「コマ図」と「問題用紙」、引率者用資料は「解答」と「コース図」。参加者用資料はしおり等に挟めると、全員が実施中に資料を確認できるためおすすめ。

【進め方】

- ①参加者に対して進行方法や注意事項についての説明や確認をおこなう。また、移動用に自転車を申請している場合には、引率者は倉庫から自転車とヘルメットを受け取り、はじめのグループが出発する前に移動を開始する。
- ②設定された時間差に従って、各グループが出発する。かくしタイムによる点数付けを採用している場合には、「出発時刻」の記録を忘れずにおこなう。
- ③参加者はコマ図で現在地や進むべき道を確認しながらコースを歩いていく。「●」は現在地、「矢印」は進む方向を示している。
- ④コマ図内に「CPO」の文字が記されているコマがあり、そのコマの範囲内で「チェックポイント○番の問題についての答え」が見つかることを意味する。解き忘れの無いように注意して歩いていく。
- ⑤問題の中に1問だけかくし問題が存在する。問題用紙にはヒントのみ記載されているため、参加者は「!(^^)!»マークが書かれたコマの場所でヒントに従って情報をメモしてくる。かくし問題は、ゴール後に引率者から出題する。かくし問題の出題はゴールしたグループから順に出題しても、全員がゴールした後に出題してもどちらでも構わない。
- ⑥ゴールしたグループは「到着時刻」を記録し、さらに出発時刻と到着時刻から「所要時間」を計算して記録する。
- ⑦問題についての答え合わせをおこない、点数を計算する。点数は「5点×正解数」で計算する。
- ⑧かくしタイムによる点数付けを採用している場合にはかくしタイムを発表して、点数を計算する。点数は「50点－タイム差(分)」で計算する。